

令和3年4月

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）
科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム
プロジェクト企画調査事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

日比野 愛子（弘前大学 人文社会科学部 准教授）

2. 課題名

細胞農業技術をめぐる社会的価値観・政策・倫理のダイナミズムの検討

3. 実施期間

令和2（2020）年9月1日～令和3（2021）年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況

本企画調査は、培養肉生産を中心とする細胞農業技術を対象として、関連する技術領域のレビューを行い、ELSIの論点や言説化について適切な調査対象範囲と方法論を検討し、研究開発プロジェクトの実施に向けたフレームの設計・洗練化を目標として実施されたものである。当プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、細胞農業を対象とする意義やフレームの再検討、対象とするELSIの深掘り、日本社会の文脈との関係性の検討、研究開発現場や行政・企業などとの連携を見据えた戦略的設計、などの点の強化を期待した。

本企画調査は、当初計画を見直した上で、価値観、政策、倫理にかかる基礎的調査と、それぞれの仮説に基づく研究対象の具体化、今後の方針についての検討が着実に推進されている。しかしながら、グループ個別の論点抽出と方針検討の範囲にとどまり、それぞれの視点を総合してどのように展開していくのか、細胞農業技術のELSI検討の深化や価値導出に向けた仮説構築という観点では、予備的調査の段階にとどまっており、本企画調査の目標を達成できていない事項がある。本企画調査の先に見据える研究開発においては、細胞農業技術の研究開発現場や、企業・行政等との具体的な協業が重要である。また、当該分野は国際的な技術投資やエコシステムのスケールで進展しており、その動向にも対応する戦略的な研究開発設計が必要であるが、それぞれ未だ準備の初期段階にあると思われる。

日本の文脈も意識したELSI検討の深化や、研究開発における仮説構築と道筋の具体化が必要であり、協業する技術開発現場とのさらなる連携強化を期待する。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループ チームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB プロデューサー

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 理化学研究所 理事／東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士／慶応義塾大学 SFC 研究所 上席所員

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職はすべて 2021 年 3 月末時点)